

ニューズレター雪氷北信越

No. 46 平成7年11月10日
(社) 日本雪氷学会北信越支部発行

目次

講演会・学習会・研究発表会報告／講演会・学習会の案内／研究会の案内／
ニュース／支部賞／機関誌／その他

講演会

講演会「雪形の民俗と科学」の報告

平成7年9月24日(日)14時より、長岡市中央公民館大ホールにおいて、長岡市立科学博物館との共催のもと、上記の講演会が開催された。初めに早川典生支部長の挨拶の後、森田総研十町試験地の遠藤八十一氏から魚沼地方の雪形を観察した雪形研究のおもしろさ、雪氷学との接点について、新潟県立高校の義次氏から新潟県の雪形と民俗について、長岡市立科学博物館の藤崎進氏から長岡付近の雪形と民俗について、それぞれ豊富な事例をもとに詳しい話があった。最後に長岡雪氷研の河島克久氏から、長岡市鋸山の川の字雪形を例に、季節の推移に敏感な雪形を気候学的に考察した話があった。

当日は台風の接近で集まり具合が心配されたが、新潟県内外から52名もの多くの方々の参加があった。講演会の時間が予定を30分質上も超過してしまったが、これは各講師の熱弁と聴講者の活発な質疑によるもので、大変盛会裏に終了することができた。

(和泉幹事 記)

講演会

特別講演会の報告

「フィンランドの地熱エネルギーの活用について」

地下水研究に関して来日中のHeikki Iiholaさん(Vesi-Hydro Consulting Engineer)による特別講演会(メイン企画: 福井大学環境設計工学科 福原助教授)が下記の通り開催されました。

日時: 平成7年9月11日(月)10:30~12:00

場所: 福井大学工学部環境設計工学科G中1教室

フィンランドの地下水の温度は約5℃であり、日本のわれわれ周辺のものに比べはるかに低い。しかし、当地の冬の気温(1月平均気温-6.8℃)からみると相対的に高いものであり、地熱を補助熱源として利用することは日本より相当に進んでいるようである。地下水を利用した後の地下への還元、岩盤への高温水の貯留、還元にあたっての化学的処理などについて紹介があった。熱エネルギーへの関心はわれわれ温暖地域に比べ高いのではないかと印象を受けた。参加者は福井大学学生および学外者を合わせて30人。

(杉森理事 記)

衛星リモートセンシングによるオホーツク海の海水の変動
- 2035年オホーツク海に海水はあるだろうか? -

西尾文彦氏（北海道大学理学部）が、この夏、オホーツク海の海水の変動について、衛星リモートセンシングを用いて、その変動のメカニズムを明らかにしようとする。その目的は、オホーツク海の海水の変動が、日本の気候や生態系に与える影響を明らかにすることにある。氏は、この研究のために、オホーツク海の海水の変動を、衛星リモートセンシングを用いて、その変動のメカニズムを明らかにしようとする。その目的は、オホーツク海の海水の変動が、日本の気候や生態系に与える影響を明らかにすることにある。

「吹雪をもたす雪雲のレーダー観測」

日時：平成7年9月21日（木）
場所：富山市科学文化センター多目的教室
講師：上田博先生（北海道大学理学部）
参加者：15名

高速道路網や航空機輸送の急激な発達に伴い、吹雪・地的吹雪やダウンスnowの発生が、交通の妨げとなる。吹雪の発生メカニズムを明らかにし、吹雪の発生を予測するための研究を行う。その目的は、吹雪の発生メカニズムを明らかにし、吹雪の発生を予測するための研究を行う。その目的は、吹雪の発生メカニズムを明らかにし、吹雪の発生を予測するための研究を行う。

（飯田幹事 記）

「樹種の違いによる雪面熱収支特性について」

標記の題目による新潟地区学習会が平成7年9月8日（金）15:30長岡雪氷防災実験研究所において開催された。講師は8月末に長岡技術科学大学で博士課程を修了した小池正子氏であった。氏は新潟県の山の岳地から富士山、チベットの山岳地帯まで、樹種の違いが雪面の熱収支に与える影響を明らかにした。参加者は35名を数え、熱心な議論が行われた。

（早川支部長 記）

平成7年9月29日(金)、長岡技術科学大学において、佐藤佳昭氏(株)新潟鐵工所)を講師に迎え、「越冬よもやま話」と題する学習会が開催されました。氏は、第35次南極地域観測隊の一員として、昭和基地にて越冬され、ドーム基地の建設に活躍されました。学習会では、南極生活に関する話題を中心に、時速4kmのブルドーザを運転してのドーム基地までの1000kmの旅の話、越冬隊員への意識調査アンケートの結果など、貴重な体験を、ユーモアを交えて紹介していただきました。出席した学生からは、「越冬隊員になるにはどうしたらよいのか」など活発な質問がよせられ、楽しくなごやかな学習会となりました。参加者は20名。

(上村幹事 記)

「冬期雪国生活の安全性の高度化に関する研究」の報告

平成7年10月17日(火)、(財)セコム科学技術振興財団の寄付によって、長岡技術科学大学に建設された、セコムホールの落成を記念する標記研究発表会が開催されました。会には、近隣の大学、高専、高校の教員、学生を始め、県、市町村、企業の方など、多方面から71名のご参加を頂き、活発な討論がなされました。講演題目と講演者は以下の通りです。

「屋根雪荷重計の開発に関する研究」

長岡技術科学大学教授 梅村晃由

「屋根雪等人身事故調査ならびにその防止に関する研究」

岩手大学教授 中村 勉
長岡雪氷防災実験研究所第3研究室長 納口恭明

「冬期間の市街地における人身事故と安全対策に関する研究」

北海道工業大学助教授 苫米地 司

「都市内外の雪処理技術の効率化に関する研究」

秋田工業高等専門学校教授 伊藤 颯

「冬期野外活動の安全に関する研究」

北海道大学教授 秋田谷英次

「溪流地における雪泥流の実態と安全対策の研究」

新潟大学教授 小林俊一

*なお、研究発表会の予稿集が残っておりますので、希望される方は、長岡技術科学大学 上村までお申しつけ下さい。

TEL.0258-46-6000(内線 7346) FAX.0258-46-6972

E-mail:kami@nagaokaut.ac.jp

(上村幹事 記)

学習会

長野地区学習会のお知らせ

日時：平成7年12月9日（土）14:30～16:00

場所：信州大学 教育学部中校舎2階201教室
（長野市西長野6-0）

内容：「雪のつくる山地の地形」 小林 詢（信州大学教育学部）
氷河地形、残雪による雪食地形、雪崩のつくる地形など、
多雪山地において雪のはたらきによってできるさまざまな
地形が、スライドを交えて紹介されます。

問合せ先：岩井邦中（信州大学教育学部） TEL.026-232-8106
矢島 篤（日本気象協会長野センター） TEL.026-235-1533

学習会

石川地区学習会のお知らせ

日時：平成7年12月11日（月）15:30～17:00

場所：金沢大学 工学部 第一会議室
（金沢市小立野2丁目40番20号）

講師：中川 千枝（金沢大学 医学部 衛生学教室）

演題：北陸の酸性雨・雪について

問合せ先：村本 健一郎（金沢大学 工学部）

TEL.0762-34-4890 FAX.0762-34-4900

講演会

雪に関する講演会のお知らせ

「雪と地域づくり講演会」

雪をいろいろな角度からとらえ、雪国のよさや快適な生活のあり
方、および、地域の活性化についての話題を提供し、今後の地域づ
くりへ寄与するため、下記の講演会が開催されます。

主催：福井雪害対策研究会／福井県雪対策・建設技術研究所／
（社）日本雪氷学会北信越支部

後援：福井県雪技術研究会

日時：平成7年12月4日（月）13:30～16:00

場所：福井県職員会館 101号室
福井市松本3丁目16-10 TEL.0776-26-0111

内容：1.雪のレジャー施設開発と地域
勝山東急リゾート開発（株） 支配人 和田 諭
2.私と雪との関わり
（地域デザインに関係している女性を予定）
3.雪国の住生活環境について

福井工業大学 教授 前田 博司

司会

福井県雪対策・建設技術研究所 総括研究員 杉森 正義

問合せ先：福井県雪対策・建設技術研究所 杉森 正義
TEL.0776-35-2412

案内

中谷宇吉郎 雪の科学館 開館1周年記念

『あんな雪 こんな氷』

高橋喜平写真展

期 間：平成7年11月2日（木）～平成8年1月30日（火）

場 所：中谷宇吉郎 雪の科学館

案内

1995年度 雪氷防災研究連絡会 & 雪氷防災研究会

標記の雪氷防災研究連絡会&雪氷防災研究会が下記のとおり開催されます。

記

日 時：平成7年12月13日（水）9:30～16:30

会 場：ひだホテルプラザ

〒506 岐阜県高山市花岡町2丁目60番地

TEL. 0577-33-4600

主 催：科学技術庁 防災科学技術研究所 長岡雪氷防災実験研究所
岐阜県

プログラム：

9:30～ 9:40

開会の挨拶

9:40～12:00

1995年度雪氷防災研究連絡会

(12:00～13:00

昼 食)

13:00～16:30

1995年度雪氷防災研究会

・ 13:00～13:35

(1)飛驒の雪

富山市科学文化センター 主任学芸員 石坂雅昭

・ 13:35～14:10

(2)雪形の民俗と雪氷学の接点

森林総合研究所十日町試験地主任 遠藤八十一

・ 14:10～14:45

(3)雪を活用した地域の活性化

岐阜県吉城郡河合村役場 村長 松井靖典

(14:45～15:00

休 憩)

・ 15:00～15:35

(4)雪に強い住宅造り

豊田工業高等専門学校 教授 深沢大輔

・ 15:35～16:10

(5)新しい雪国を目指して

長岡雪氷防災実験研究所 所長 中村秀臣

閉会の挨拶

* 参加は無料です。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

長岡雪氷防災実験研究所 五十嵐高志・清水増治郎

〒940 長岡市栢吉町前山187-16

TEL. 0258-35-7522 FAX. 0258-35-0020

ニュース

石坂雅昭会員 日本博物館協会「棚橋賞」を受賞

富山市科学文化センターの石坂雅昭会員は、このたび、日本博物館協会から棚橋賞を授与された。同賞は、昭和38年、故棚橋源太郎氏の寄金をもとに創設され、日本博物館協会機関誌『博物館研究』に掲載された論文、調査、研究活動、報告等の中から優秀と認められた人に贈られるものである。今回の受賞対象となったのは、今年の9、10月号に掲載された「展示と述べるメディアの特徴と博物館の役割(1),(2)」という論文で、その中で述べる考え方は、『雪氷北信越14号』に掲載された「展示から見える世界—自然科学と身体—」にもあらわれている。なお、同会員はすでに日本雪氷学会「平田賞」を受賞されており、今回と併せてダブル受賞となった。

(小林幹事 記)

支部賞

1996年度支部賞授賞候補者推薦の申し出について

1996年度支部賞授賞候補者の推薦には、支部の理事および評議員が、下記の項目を記載して4月10日までに書類を支部事務局へ提出することとなっております。候補者にお心当たりの方は、期限に間に合うようにお近くの理事あるいは評議員へお申し出下さい。

記

- (1) 雪氷技術賞、大沼賞、雪氷功労賞の区別。
- (2) 推薦者の氏名、所属、職名。
- (3) 授賞候補者の氏名(または団体名)、所属、職名。
- (4) 推薦理由書(〇〇〇の功績などの授賞表題を掲げ、800字ほどにまとめたもの)。
- (5) 上記の理由書を証明する関係書類があれば添付する。

機関誌

「雪氷北信越15号」発行のお知らせと

自由投稿文・広告の募集

北信越支部編集委員会では、年末に『雪氷北信越15号』の発行を予定しております。つきましては、下記の通り、随筆・評論的な自由投稿文を募集致しますので、奮って御投稿下さい。また、同誌に掲載する広告を募集致します。『雪氷北信越6号』最終頁を御参照の上、御連絡下さい。

1. 締切り：平成7年11月30日(木)必着
2. 字数：3000字(2頁)程度(御連絡頂ければ「執筆要領」をお送り致します)
3. 問合せ先：〒940 新潟県長岡市栖吉町前山187-16
長岡雪氷防災実験研究所 小林俊市(TEL.0258-35-7522)

その他

『ニューズレター雪氷北信越』について

ニューズレターに関するお問い合わせは
長岡雪氷防災実験研究所 小林俊市

TEL.0258-35-7522
FAX.0258-35-0020

までお願いします。